

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900283		
法人名	医療法人 健幸会		
事業所名	グループホーム さいわい		
所在地	京都市伏見区向島本丸町28-2		
自己評価作成日	平成27年10月6日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2690900283-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院であり、建物の1・2階がデイサービスで3階がグループホームになっており、デイサービスの行事にも参加している。個人に合わせた対応を行い、利用者全体の空気がゆっくりと漂っています。特にグループ内で重視しているのは、口腔ケアである。口腔内の清潔を保ち、口からの菌の予防に取り組んでいる。夜の口腔ケアを重点にしている。管理栄養士の献立による配食で、栄養・本人の体調に合わせた食事を提供している。母体が病院であることにより、週2回の往診で利用者の健康管理を行っている。緊急時での対応が迅速に行える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を母体とする当該ホームは、医療との連携が図りやすいことで利用者や家族からの安心と一人ひとりの利用者の健康状態の把握や口腔ケアの徹底から肺炎予防等、健康で穏やかに暮らせる方が講じられています。また、無農薬野菜や化学調味料を使わない食事の提供は、利用者の食欲増進や健康管理にも活かされるよう配慮がなされています。理念に掲げた地域の皆さんと共にありたいとの思いの実現に向け、地域へ出て交流の場作りにも努め、散歩や地域の行事にも関心をもち出かけ、地藏盆の法話では利用者が正座して法話を聞き、地域の一員として交流する機会を大切にしています。利用者により理解したいと利用者の側に寄り添い、会話や発した言葉や行動等を見逃さず、馴染みを探して家族と共に外出の機会を作るなど、チームワーク良く個別の外出支援に力を入れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:「私たち職員は入居者の皆様の尊厳を保ち、地域の皆様と共に穏やかで安らぎのある生活が送れるよう支えていきます。」を職員で確認しながら行ってる。	開所当初に作った理念を地域の皆さんと共にありたいとの思いを込め見直し、ホールや事務所に掲示し唱和を行い意識付けをしています。利用者の尊厳を守り、地域の中で穏やかに過ごせるよう日々のケアの提供に努め、ミーティングで振り返り、常に原点に立ち戻る事を大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地蔵盆やすこやかサロンなど地域の行事などに参加している。また、1・2階はデイサービスであるが、近隣の方もデイサービスを利用されており、交流がある。	町内会に加入し様々な情報を得ています。地蔵盆では法話を聞いたり、すこやかサロンには毎月出かけています。デイサービスで行う夏祭りやクリスマス会には地域の方々と交流したり、近所の方が花を持ってきてくれたり、中学生の実習の受け入れや大学生の演奏の他、大学でのお茶の誘いもあり出かけ食事も楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に見学に来て頂くなど施設の説明を行い、認知症などを理解して頂く。(運営推進会議時に行う。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。利用者の家族や地域の民生委員、包括支援センターなどとの交流の場にし、楽しんでいただいている。利用者と一緒に過ごして頂くことにより、実際の暮らしやサービス内容を感じていただいている。その上で今後の方向性を話し合う。	会議は、利用者や家族、民生委員や社会福祉協議会、地域包括支援センター職員、他施設の職員等の参加の下で年6回開催しています。活動状況や個別の外出支援での取り組みやアンケートの内容を説明し、改善点を報告しています。出された提案から検討し駐車スペースを確保に繋げた例があります。また、参加者と地域の高齢者の様子や連携について話し合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは何かあれば相談ができるように、普段から顔の見える関係を構築するように努めている。必要に応じ市町村担当者とは、極力郵送やTELで済ませるのではなく、市町村担当者に訪問するようにしている。	議事録は窓口へ届け、手続き上で困ったことがあれば出向いてその都度相談をしています。市の研修案内や地域密着型協議会の会議には出席し、良好な関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。マニュアルの整備と研修を実施している。	年1回身体拘束について全職員対象に研修を行い、マニュアルや資料、事例を挙げ分かりやすいよう伝えていきます。言葉遣いにも気をつけ、不適切な対応があれば個別に指導を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。エレベーターは暗証番号になっていますが、外に行きたい様子があれば見守りと付き添いを行っています。毎朝外に行けるよう工夫し気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの整備及び研修を実施している。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を実施している。また、以前には後見制度を活用された利用者もあり、後見人の訪問もあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談を行い不安なことはあらかじめ解消できるようにしている。契約時は、契約書を見ながら説明する。施設内をご案内し説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、相談や意見があるときは投函して頂く。また、市町村窓口を事業所内に掲示している。さらには、ご家族様個別にアンケートを実施し、アンケート結果に基づき対応を検討・実施・運営推進会議で公表している。	運営推進会議や面会時に直接意見や要望を聞いています。また、ケアマネジャーが様々な意見や相談を直接電話で受けています。主にケアに関する細かな要望も出され都度職員と検討し改善に向け取り組んでいます。お茶以外の飲み物の種類を増やしたり、口腔ケアを専門の訪問歯科に繋げる等、出された意見は運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管理者・計画作成担当者・介護職員の全体会議を実施し、意見や提案を収集し反映するように行っている。	月1回行う会議では、事前に提案書に意見や要望を書いてもらい職員間で共有し、ミーティングでその内容の検討と実践に繋げています。より良いケアの仕方や一人ひとりに合った対応方法も資料から学んでいます。また行事企画担当者の提案で場所などの下見をくり返し、楽しめる外出となるよう取り組んでいます。随時個別面談も行い何でも言い合える関係作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲的に働けるよう出来る限りの努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を確保し、資格を取得できるような環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と情報交換したり(他事業所の運営推進会議の参加・施設見学など)、外部研修にも参加している。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直前は、本人・家族・管理者・介護リーダー・介護スタッフ・計画作成担当者等で事前面談を行う。初回面談時は傾聴と状況分析に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族・医師・管理者・介護リーダー・介護スタッフ・計画作成担当者等で、事前面談を行う。初回面談時は傾聴と状況分析に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険サービスだけでなく、介護保険以外の社会資源の活用も視野に入れ、事前にその準備なども行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身状況に合わせ、声掛けを工夫している。掃除・食後の片づけ等を共に行っている。ホールのカーテンの開閉は、利用者の役割となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話等でお互いの情報・考え方などの話し合い、対話する機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に面会に来られる家族が多く、その際昼食を外でしたり、墓参りにも一緒に行けるような雰囲気づくりを行っている。また、家族の写真も居室に置く環境作りを行っている。さらには、個別による外出支援も実施している。	兄弟姉妹や甥の訪問があり、居室でゆっくり過ごしてもらい、また併設するデイサービスで馴染みの友人に会ったり、面会にも来てもらえる関係が継続されています。冠婚葬祭や墓参り、自宅に家族と外出する際には準備の支援をしています。また、利用者の言葉をヒントにその方の馴染みの場所を探し、家族も誘い一緒に行ってもらおう等、これまでの馴染みの人や場との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人での時は、声掛けにてお誘いをする。孤立にならないよう支援している。テーブルは円卓でお互いの顔が見え話しやすいようにしている。また、大勢で参加できるように大きめのテーブルを配置している。(パズル・塗り絵など)		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、転所・転院され落ち着いた生活を送れるようになるまで、本人様や家族様、関係事業所等と連携を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は、馴染みの物を持ってきてもらうように説明している。テーブル・座る位置は決まっているが、利用者の意向に沿うようにする。	入居前に訪問し生活歴や趣味等を本人、家族から聞きとり、また暮らしぶりの把握に活かせるよう写真を撮って本人の暮らし方の希望や家族の意向を聞いています。思いの把握の困難時は家族に聞いたり、本人本位となるよう職員と思いを推測し検討を重ねています。関わりで知ったことは分かりやすい方法で記録し思いの把握に活かし、サービス担当者会議には家族の参加があり、意向を再確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、本人様の生活歴や生活環境の整理を行っている。また、家族様や本人様などに複数の職員が面談に参加し、多様な視点でお話を傾聴している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・介護記録を使用して、本人の一日の行動・状態が分かるように記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやサービス担当者会議を行い、そこでケアに対するアイデア等を吸い上げている。	アセスメントや本人、家族の意向等を基にサービス担当者会議を開き、本人、家族の意向を再確認して介護計画を作成しています。職員は短期目標にそって記録をし、毎月行うミーティングでモニタリングと評価を行いケアの方向性を確認しています。再アセスメントをして6ヶ月毎に計画を見直し、更新時のサービス担当者会議には家族も参加してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の申し送りを朝・夕の2回行っている。また、ミーティングやサービス担当者会議等でアイデアを出し合い、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的な管理は病院が管理し、食事は管理栄養士が分担して管理している。これらと連携を密にし、健康管理を行っている。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の出席で地域(町内の住民)も訪問。デイサービス・ホームヘルパーが同じ建物にあることもあり、相談しやすい状況にある。このため、相談したいときに訪問して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族は法人の病院をかかりつけ医とすることで、適切な医療を受けやすいと安心されている。週2回、法人の病院より往診を実施している。訪問歯科も利用されている。	かかりつけ医への継続ができることや協力医について説明していますが協力医を選ばれ、週1回の往診を全員が受けています。又、他の医療機関の受診は家族の協力を得ています。その際にはホームでの情報は口頭で家族に伝え、医療的な情報は医師より情報提供を行っています。歯科の往診もあり希望者は治療を受けてます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師のため、常に対応している。状況把握や対応が迅速に行える。一日二回の申し送りでその都度伝える。(特に体調不良の方)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は法人の病院が主であり、医師・病棟とは常に連絡を取り合っている。退院後は主治医や管理者と相談しながら対応を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、事業所では行っていない。介護スタッフで対応できる範囲内であれば通院・往診で対応。随時状況を医師や家族と相談しながら対応している。さらに、事業所内にて重度化対応指針についての研修も実施している。	重度化や終末期に向けては指針で説明していません。重度になった場合には、ホームで看取りの支援はしないと伝えていますが、家族やかかりつけ医、事業所の三者で話し合い、家族の希望に添えるように状況に合わせて話し合いを重ね相談しています。急変時は医療機関へ搬送しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備及び研修にてすべての職員が確認済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に(半年に一度程度)消防訓練を行い、実践出来るようにしている。また、マニュアルの整備と研修も実施している。さらに、事業所内及び法人系列病院にて水や食料の備蓄を行っている。	消防署の指導の下、年2回昼・夜間を想定し訓練を行っています。初期消火や避難誘導を利用者と職員、併設するデイサービスの利用者と合同で行っています。地域へ案内をしたり、また地域の防災訓練には職員が参加しています。病院の寮が建物の隣にあり、応援に駆けつけてもらえる体制になっています。備蓄の管理は病院が行っていますが、ホームも1日分位は備えています。	

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のためのマニュアルの整備や研修を実施している。	法人やホームで行う様々な研修で接遇や尊厳、虐待、プライバシー保護について学び、伝達研修で周知しています。基本的には敬語で丁寧な言葉使いを行うように指導しています。日頃は丁寧な対応やその方に合わせた対応に努め、声の大きさにも留意し不適切な対応を行っている場合はその都度職員間でも注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「外に行きたい」とお話があれば適宜散歩に行き、気分転換を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のレクリエーションは、職員が決めて行うのではなく、一人一人の行いたいものを聞いて行う。(パズル・塗り絵・カード遊び・テレビ体操など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服や入浴後の意替えは、本人の好みを聞いて確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事メニューを提示している。また、食事の前後には、テーブル拭きや食器すすぎを希望される方が行っている。	業者の管理栄養士が立てる献立は、無農薬野菜や化学調味料を使わない出汁にもこだわった健幸弁当として届き、また個々に必要な治療食の提供にも配慮されています。ご飯や味噌汁は届いた材料で作し、花見の弁当や季節のおせち料理等の伝統食も業者から届いています。利用者は米研ぎやテーブル拭き、洗い物、おやつや盛り付けに携わっています。職員も同じ物を食べ、和気あいあいとした雰囲気です。職員も同じ物を食べ、和気あいあいとした雰囲気です。職員も同じ物を食べ、和気あいあいとした雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による月/2回の栄養指導を取り入れており、入居者一人ひとりにあつた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛けを行い口腔ケアを行っている。また、介助を要する方には介助を実施している。起床後・就寝前も同様に行っている。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の心身状況や環境などから、オムツ・リパパン・布パンツ・ポータブルトイレ等を組み合わせさせて実施している。 その時の状況に応じ、効果的かつ柔軟な自立支援に取り組むことを目指している。	個々の排泄チェック表でパターンを把握し、時間を見て声かけや誘導を行い、全員トイレで排泄できるよう支援し、夜間のみポータブルを使用する等個々にそった対応をしています。入居時には声かけと見守りを行いトイレへ誘導することで筋力が付き失敗なくトイレで排泄が出来たり、またトイレでの排便の習慣や間隔が取り戻せた事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しを行っている。また、テレビ体操やラジオ体操で体を動かしている。 さらに、医師の指示のもと薬剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を希望される方は、入浴の順番を変更し、ゆっくりと入浴できる時間帯に入浴を行っている。	入浴は週2回体調に合わせて対応し、入浴を拒む方にはタイミングやその方に合わせた声かけを工夫しています。重度の方は併設のデイサービスで機械浴の利用ができます。湯は井戸水を利用して、かけ流し状態で気持ちよく入ってもらい、シャワーや足浴、清拭の対応もしています。柚子などの季節湯やこだわりの石鹸を使ったり、好きな歌を歌う等入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の様子を見ながら、うたたねや体調不良の時は、自室でゆっくりと休んでいただくように声掛けを実施している。 また、お休みされる場所も、本人様の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別で処方されているお薬の記録の整備を行っている。記録は閲覧しやすい場所に設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事がお好きな方は、日常的に掃除や洗濯物干しを一緒に行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的に散歩に行ったり、季節ごとに地域の行事やお花見、紅葉見学に行っている。 また、地域の行事にも積極的に参加し、これらの際には、ご家族様に協力して頂くこともある。	毎朝、少人数で散歩をするよう心がけ、コンビニで買い物をしたり、庭に置かれているベンチで気分転換を図っています。毎月すこやかサロンに出かけたり、地域で行われる行事へ参加しています。季節毎の行事では、桜や紫陽花、紅葉狩り等に出かけたり、個別の外出支援にも取り組み家族の協力も得ています。	

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安になる方は、小銭程度のお金を所持して頂いている。また、個別での外出支援も実施しており、その際にお買い物も取り入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などは、本人に手書きをしてもらっている。また、希望がある方は、随時対応可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月その月のカレンダーを、各利用者様が色塗りされる。また、その作品をホールに飾り、季節感を味わっていただいている。	ホームの玄関先やリビングには家庭的な雰囲気を出せるよう昔懐かしい置き物が飾られています。庭には季節の木や花を植え、摘んできた花を飾ったり、利用者とする作品からも季節感が感じられるよう工夫しています。丸いテーブルや一人用のテーブルも置き使いやすさにも考慮し、ソファやテーブルの配置には利用者が居心地よく過ごせるよう配慮がなされています。温室度や換気、清掃にも気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブルを用意している。集団の中で身を置くような環境作りをしている。食事は自分の好きなところで食べて頂けるような対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分でなじみの家具・使用していたテレビ等を持参している。	自宅訪問時に家具等の配置を写真に収めています。馴染みの物を備え付けのクロゼットに収納したり、自宅で使っていたマッサージ器やテレビ、家具、仏壇等の配置は自宅に近い環境となるよう工夫がなされています。家族の写真やぬいぐるみを飾り、色鉛筆や裁縫道等も持参し絵を描いたり雑巾を縫いったりしています。また遺影に水を供える役割も継続され、掃除も一緒にしながら居心地よく過ごせる居室となるよう配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように張り紙などを行っている。出来るだけ本人様で出来るように常に見守りを行い、出来ないところを出来るようになるための工夫を行っている。		